

研究会委員の募集について

この度、日本非破壊検査協会において下記に示す2つの研究会の設立が承認されましたので、本研究会の委員（参加者のこと）を募集いたします。設立趣意を御一読いただき関心を持たれました会員の皆様（非会員の参加も可）の積極的なご参加をお待ち申し上げます。参加ご希望の方は問合せ先までお申込みください。なお研究会としての会費は必要ありませんが、交通費は自己負担（特別講演の講師を除く）となります。

記

研究会名称：「 $\cos \alpha$ 法方式のX線残留応力測定法研究会」

設立目的：鋼を主とした工業材料への $\cos \alpha$ 法の実用性向上のための課題を調査・研究し、産業応用を促進する。また、装置メーカー、装置ユーザー、大学・研究機関による幅広い交流や情報交換を進めることを目的とする。

研究会主査：江尻正一（岩手医科大学）

幹事：水野亮二（発電設備技術検査協会）、鷹合滋樹（石川県工業試験場）、

三島由久（㈱X線残留応力測定センター）、藤田 工（NTN株式会社）

《設立趣意》 近年、イメージングプレートや半導体検出器による回折環計測及びそれらにより得られる膨大な二次元X線回折データによるX線応力測定技術の発展、普及には目覚ましいものがあります。とくに高速性や小型可搬性を活かした製造現場や実機への残留応力評価への用途が拡大しつつあります。これらのX線計測技術と新解析理論 $\cos \alpha$ 法等を融合させた新しいX線応力測定技術は、既に国内3社から装置化されるに至っており、現在の世界標準技術に比べて測定時間が約1/10となり、かつ、装置重量や大きさも約1/10にできることが実証されてきています。これらの装置の主要部となるX線検出器技術及びデータ解析理論はいずれも日本発の技術であり、この分野における世界貢献を果たすことも期待されます。このような時期に、日本非破壊検査協会に本技術を調査・研究して本測定技術の発展に向けた研究調査及び情報交換を進める研究会を引き続き、新規に立ち上げることは非常に重要でかつ学術並びに産業貢献の面でも有意義な活動が期待できると確信しています。

本研究会では前研究会である「 $\cos \alpha$ 法及び二次元検出器によるX線応力測定法研究会」の発展形として、工業的に重要な鋼やステンレス鋼を中心に回折環計測による本X線応力測定技術の有効性や課題などを調査研究し、最終的に測定技術の実用性の向上と産業応用を促進させることを主目的としています。この活動により非破壊検査分野における本技術の基盤を確立することで、重要部品製造等の産業基盤の優位性確保と共に社会インフラの安全安心をより向上、普及させることが期待されます。

《活動期間》 2022年 6月23日 ~2024年 3月 31日 の約2年間

初年度： $\cos \alpha$ 法によるX線応力測定法の実用性向上と産業応用・促進のための課題研究・講演会及び情報交換会の開催

2年度：前年度継続の研究講演会・情報交換会及び提起課題に対する検討報告会

の開催

《開催回数》 2~3回/年

【応募方法】

下記の問合せ先に、氏名・所属・所属先住所 TEL・E-mail をご記入の上、件名を「研究会参加希望」として、メールにてお申し込みください。後日、登録に関するフォームをお送りします。

※本研究会の設立申請時に参加者として記載されている方につきましては、既に登録してありますので、応募手続は不要です。

【問合せ先】

(一社)日本非破壊検査協会 学術部 (担当：別府)

TEL:03-5609-4015 Email:beppu@jsndi.or.jp